

第5回紫電改展示館整備検討委員会の開催結果

1 委員会の名称 紫電改展示館整備検討委員会

2 開催日時 令和6年6月4日（火曜日）13時30分から15時まで

3 開催場所 いよてつ会館4階会議室

4 出席者 委員6名（WEB参加含む）、事務局8名、設計業者3名

5 審議事項（議事）

- (1) 新展示館の計画案について
- (2) 今後の予定について
- (3) 意見交換

6 審議の内容

議事（1）新展示館の計画案について

○事務局から「コスト削減案の概要」について説明した。

- ・建設資材の高騰などから建屋の建設費用が増加傾向となり、コスト削減の検討が必要となった。
- ・コスト削減にあたっては、必要な施設やコンセプトは維持した上で検討を進めた。
- ・建屋の面積や高さを小さくし、全体の大きさを約80%まで縮小する計画とした。
- ・ガラス面はサッシを増やすことでガラスの厚みを薄くし、コスト低減を図った。
- ・展望テラスは強風など現地の環境を鑑み、利用者の安全確保を優先するために中止することとしたが、代替えとなるスペースを外構計画の中で検討した。

○遠藤克彦建築研究所から計画の案について概要を説明した。

- ・コスト削減として、2つの壁（北側・西側）を1mずつ移動させることで、形状や全体構成を変えることなく、コンセプトを維持しながら面積を縮小した。
- ・展望テラスについては、実機を展示する空間としてどのような場所がよいのかを考え安全面、維持管理、運営、バリアフリー、コストの観点から総合的に検討し、結果としてガラスの向こう側の人の往来をなくすことで純粹に実機と海と空を眺められる空間となるよう取りやめることとした。
- ・コスト削減のため面積が縮小になるなど変更があったが、変更前と変わらず紫電改実機の魅力を最大限に生かした新しい展示館になると考えている。
- ・ランドスケープの計画について、建物は実機が引き揚げられた久良湾を向いて配置され、実機もこの軸線に向いて設置されている。
- ・三角形の建物のまわりには3つのエリアがある。東側エリアは、実機と久良湾を同時に眺められるよう植栽管理を行い、新しい展示館の魅力を最大限引き出す計画としている。
- ・西側のエリアは、来館者を迎え入れる空間として整備する計画としており、建物の入り口までのアプローチには、久良湾や陽光桜を眺めるスペースを設け、気持ちを高める空間づくりを行う計画としている。このエリアは展示の導入部分になると考えている。
- ・北側エリアは、小学生等の課外活動や昼食の場になると共に、奥のエリアに繋がる活動の起点として、まとまった広場空間となっている。取りやめた展望テラスの代わりとなる、久良湾を望む展望スペースも設ける計画としている。奥のエリアの整備計画は未定であるため、将来の変化にも柔軟に対応可能な計画としている。

- ・現展示館の跡地は、駐車場を整備する計画としており、新設する駐車場には、バスの寄り付きや転回できるスペースを整備する。既設駐車場と合わせて、乗用車 27 台、バス 3 台分の駐車スペース確保を予定している。
- ・西側エリアは、愛南町の植生と合った植物を植え、四季折々の彩のある丘とする計画。
- ・駐車場と建物入り口の高低差は約 4 m あり、階段とスロープで繋ぐ動線計画としている。

議事（2）今後の予定について

- 事務局から今後の予定について以下のとおり説明した。
 - ・第 6 回の整備検討委員会は、最終設計案をお示しする予定としており、8 月頃の開催を目指す。
 - ・紫電改展示館のリニューアル事業については、今年度、造成工事と実機の移設のための調査および実機の補修を実施する予定。
 - ・建屋新築工事は、令和 7 年度着工、令和 8 年度完成予定。

7 委員会での主な意見

- 地域振興という面から考えると、建物を大きくすれば良いとか、もっとお金をかければ良いというものではないと思う。
- 現在の自然環境（風・雨）に耐えられる構造とするため、サッシの数を増やしているが、間隔はどの程度開いているのか。→場所によって異なるが現在の計画では間隔は 2.1m 程度となる
- 建屋の大きさを 2 割削減することで、さらに紫電改に意識が向く傾向となるが、開放感は維持した計画となっているため、今回の施設の在り方としては、多面的、多角的な角度で紫電改を見ていただける空間計画であると思う。
- 来館者は、様々な心情でご覧になると思うが、「平和の尊さ」「戦争のない世界」に気持ちを向けてもらえるメッセージ性を理解していただける内容となっていると思う。
- 駐車場から建屋の入口まで 4 m 程度上がる計画となっており、スロープは設置されるが、車椅子の方にとって、登り坂は大変だと思う。北側の広場は建屋の入口とほぼ同じ高さとなるため、広場の上に駐車場を設けることも今後検討してほしい。
- 展望テラスの計画は中止となったが、新しく計画された展望スペースは、計画していた展望テラスより高い位置に設置されることとなるため、景色を楽しむという点ではプラスになっていると思う。
- ガラス面の維持管理が大事だと思うが、メンテナンスはどのように実施するのか。→現在の計画の高さであれば高所用のモップで掃除は可能。専門業者に委託する必要はないと考えている。
- 展望テラスが無くなったが、逆転の発想で、そこに人がいない方が内側から実機を見ることに関しては、実機と海を同時にみることができると、メリットでもあると思う。
- アプローチは、序章になるところでもあると思うので、植栽のある場所を通して心を落ち着かせていくというのは良いと感じた。
- 団体客を引率することを考えると、アプローチ部にゆとりがある方が良いと思う。
- 植栽に関して、将来的に大きくなる木もあるのかと思うが、メンテナンスの事も考えて樹種を検討する必要があると思う。
- 照明はあまりないのか。→日が落ちるのが早い時期もあるため、照明は必要。展示の内容的にも、見せたいものに照明を当てる計画とする予定。
- 高齢者にとって歩く距離が長いと大変な面もあるため、行き来しやすい道として「下り坂」の選択肢があってもよいと思う。（北側に駐車場の整備を検討するべき。）
- 自転車での来館者も来ると思うが、駐輪場はあるか。→設ける予定としている。
- 展望テラスが無くなった分、室内に座って実機を見られるスペースが欲しい。
- 来館者一人ひとりの自由な動きが選択できるスペース（遊び）があっても良い。
- アプローチ部は植栽のみの計画となっているが、今後、そこにメッセージを残していくなどの計画があってもよい。

- 車椅子の生徒を引率した場合を想定すると、道路を使って建物より上の位置で下車させる方法を選択すると思う。そういう意味でも、北側のエリアは大切な部分であると思う。
- 実際に現地に行くと、この公園のポイントは「海」だと感じた。時間によってみせる海の姿が印象に残った。
- 展示品がもっている印象は強いが、子ども達の発達状態によって、どのように感じているかはわからない。2回目に行った時に、新しい気づきがあることもある。飛行機が好きで、そこから興味を持つ場合もあるため、そういった切り口でも展示計画が考えられている点は良いと感じた。
- はがきにメッセージを残すことで、そこに自分の軌跡を残すことにもなると思う。それをきっかけに、もう一度リピートして訪れるという「しかけ」になっていると思う。
- この計画では、正面から紫電改の写真が取れなくなるのではないかと思う。いろいろな角度から写真が撮れるということは、重要なポイントではないかと思う。
 - ガラスまで2m程度はあるが、現在の館のように正面から撮影することは難しいと思っている。
 - 一方で三角形の形状をしているため、斜めからの撮影は優れていると思う。現行のコンセプトを保守するため、正面からの撮影についてはご容赦いただく必要がある。カメラの種類によっては、正面からの撮影も可能ではないかとも思う。
 - 設備側で、正面から撮影できるカメラを設置するなどのアイデアも可能性としてあるのではないか。
- 現在の館の東側に慰霊碑がある（343航空隊の戦友会が建てたもの）が、外構を整備した際に、どこに設置されることになるのか。→北側の広場の奥へ移設予定としている。
- 展示製作は、どのような体制で実施するのか。→展示の製作は来年度以降を予定しており、その実施方法については、現時点で未定。

〔整備検討委員会事務局〕
土木部道路都市局
都市整備課公園緑地係
電話 089-912-2749
FAX 089-912-2744